

付着生物ラーバ情報

1 ラーバの出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ、キヌマトイガイ

ラーバは見られていません。

(2) ムラサキイガイ

ラーバは久栗坂沖で0.6個体/m³、野辺地沖、川内沖でいずれも0.8個体/m³見られました。

(3) オベリア類（クラゲの仲間、通称クサ）

クラゲは見られていません。

(4) アミクサ（海藻、通称クサ）

小枝は久栗坂沖で2.2個体/m³、川内沖で14.1個体/m³見られました。

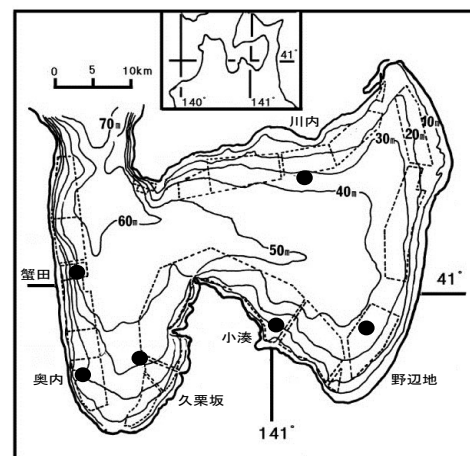


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

ユウレイボヤは水温が20℃以下に低下すると産卵しますが、現在、陸奥湾内の中層水温が16～18℃台まで低下したにもかかわらず、依然としてラーバが見られないことから、分散済みの籠への今秋における付着は少ないと考えられます。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われます。

表1 ラーバ等の出現状況

単位: 個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラホヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	アミクサ
久栗坂沖	H30.11.5	0.0	0.0	0.0	0.6	2.2
野辺地沖	H30.11.5	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0
川内沖	H30.11.5	0.0	0.0	0.0	0.8	14.1

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

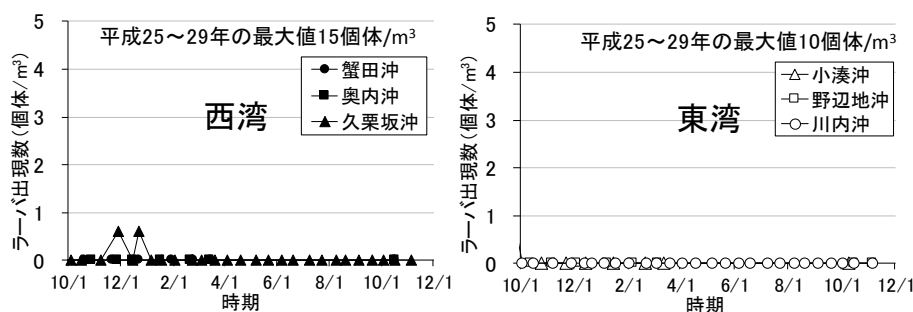


図2 ムラサキイガイ・アミクサ出現数の推移（平成29年10月～平成30年11月）

3 ユウレイボヤとオベリア類の付着予測

10月～翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数（久栗坂）、オベリア類累積クラゲ数（蟹田、奥内、久栗坂）、12月～翌年3月までの青森ブイ水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係を調べたところ、平均水温が8℃以上であればラーバ（クラゲ）累積出現数が多くても付着量が少ないことが分かりました（図3）。ちなみに青森ブイの平均水温の平年値は8.1℃です。

また、未分散稚貝のパールネット内に今秋生まれの小さなウミセミが多数見られます。ウミセミは8℃以上の水温で付着生物を活発に食べるので、冬季に水温が高ければ来春の付着生物量は少ないと考えられます。

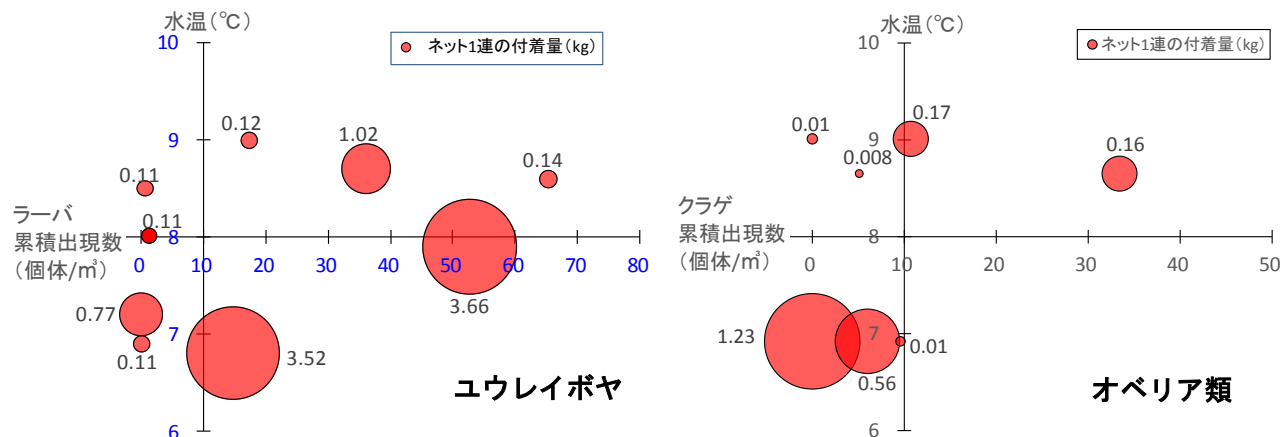


図3 西湾におけるユウレイボヤのラーバ（左図）とオベリア類のクラゲ（右図）の累積出現数、青森ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係（○印の中心はプロット位置、面積は付着量）

